

「準備しても、中止や延期になる。そんなことにも慣れたわよ！」

ナウい 市民活動言葉

コロナ禍でアップデートする市民活動

コロナ禍で耳慣れない言葉がいつの間にかフツーに使われるようになっていたり、

「コロナ禍」の「禍」、初めは読めなかったな

「ソーシャル・ディスタンス」
もうこの言葉、聞き飽きたよ

「自宅療養」？ 違う違う。あれは「自宅待機」だよ

「テレワーク」って60年代っぽくない？

「野戦病院を作る？」って戦争用語じゃん。

なんで「仮設病院」じゃダメなのかな。

「酸素センター」ってどういう施設？

「次亜塩素酸水」最近では聞かないね

昔の言葉が再ブレイクしたり、いつのまにか使われなくなったり・・・

コロナ禍で市民活動のイベントの中止や延期が相次ぐ中、
それでも新しい言葉を耳にします。

フードパントリー
フードドライブ
Zoom (ズーム)
OECM

活動の変化と一緒に生まれる言葉は
新しいことが起こる兆しでしょうか。

のた利

号

((すかっこの市民活動情報))

今は「ソーシャル・ディスタンス」
ではなくて「フィジカル・ディスタン
シング」と表現するんですって！

市民活動に
どんな変化が
あるのかな？





コロナ禍の中、活動を続けている市民活動団体にお話を聞いてみました。

ちょこっと インタビュー おしえてコロナ禍の活動

フードドライブ

主に家庭で余っている食品の寄付を募り、フードバンクなどを通して生活困難者などに提供する活動

フードパントリー

食品を無料で提供する支援活動

となりのれすとらん 〈子ども食堂（みんなの食堂）をコミセンを利用して開催〉

フードドライブを予定していたが、会場であるコミセンの閉鎖で中止になったため、神奈川フードバンクプラスの協力で事務所を借り、フードパントリーを開催。企業から寄付いただいた食品をみんなに配ることができました。ただ、密を避けるため人数を減らしておこなう必要があるため、ボランティアの体験希望者を断らざるを得ないのがとても残念でした。

視覚障害者 IT サポート横須賀

〈視覚障害者の IT 環境をサポート〉

対面でのサポートをオンライン「Zoom」に切り替えて活動を続けています。困ったことを参加者みんなで話し合えるようになりました。視覚障がい者関連の情報交換の場にもなっています。

Zoom (ズーム)

オンラインサービス



親子でほのぼの♪ オープンカフェから見える京急の電車、楽しい！

サンカフェ広場

〈長沢駅から徒歩1分にあるコミュニティカフェ〉

一時閉店していましたが、地域からの声を受けて再開。感染防止のため、店内飲食は中止して、店頭で「オープンカフェ」をおこないました。

グリーンハイツ「ゆいの広場」

〈地域住民による生活支援〉

週に1回のワンコインカフェの開催を続けています。検温、消毒、換気など工夫をしながら続けています。



編集ボランティア取材の全文が Web で見られます。



NPO 法人三浦半島生物多様性保全

〈横須賀市内で田んぼや里山を中心とした生物環境の保全〉



環境保護区以外の地域の生物多様性保全
Other effective area-based conservation measures

コロナ禍でも自然は待ってくれません。口コミで人手を募りながら、身近な生物を学ぶことを大切に里山管理の活動を続けています。また、オンラインで生物の専門家会議をおこなっています。環境保護区以外の地域の生物多様性保全、地方自治体との取り組みなどの重要性「OECM」なども話し合われました。

OECM



「夏のボラ市 2021」では、今年の夏におこなわれた市民活動団体のイベント報告をご覧ください。ボランティアで参加した方達の感想なども載っています。



～市民活動を支える人たち～

よこすかひとり親サポーターズ・ひまわり 代表 佐藤 智子さん

気さくな雰囲気の中に情熱と突破力を持った、よこすかひとり親サポーターズ・ひまわりの佐藤さんにお話を伺った。

オイルショック直前の昭和49年横須賀市に生まれる。

子どものころから父が大好きで、よく隣で眠っていたという。一人っ子だったことから「兄弟が欲しい」と言ったら、妹の代わりに、と犬を買ってくれた。おとなしいシェルティーで、習い事などどこにいくにも一緒に連れて行った。リュックにおにぎりをいれてラジオを吊るして、犬を連れ父と近所の山によく散歩に行った。七輪を持ち、近所の山の入り口で焼き肉をしたこともあった。

そんな父の影響を受けて、佐藤さんも自由闊達に育った。ある日、友達に聞かせたい歌があったので、ラジカセを持って学校に行き、先生に叱られた。どうして叱られるのかと思ったという。

「ひとりの時間が好き」という佐藤さんは、中学では部活には入らず、コミセンの図書室に通って本ばかり読んでいた。英語と国語が好きだったから、短大の英文科に進学した。英語の本を読んだり、映画を観たりするのは好きだったが、将来は英語を生かした仕事というより、誰かのサポート的な役割ができる事務の仕事に就きたいと思った。

結婚して、二女の子に恵まれたが離婚。二人の幼子を抱えて生活してゆくことになって、それまで何回か勧められたことのある看護師の職に就こうと思うようになった。働きながら准看護学校に通い、2年間で准看護師の資格を取った。そこからさらに3年間、働きながら学校に通い、正看護師の国家試験に合格。5年間の勤労学生生活だった。

准看護学校に通っていたころ、大好きな父親が癌になった。知り合いの紹介で、東京の病院で手術、術後し

ばらくは自宅で過ごしたがその後再発、再入院し抗がん剤や放射線の治療もした。月曜から金曜まで、仕事と学校。土曜日の朝、父を車で東京の病院まで迎えに行く。父が

家族と自宅で過ごす間、夜勤のバイトをして夜勤明けの日曜一眠りしたあと、みんなで夕食を取って、父を病院に送り届けた。何か月間か自分の休みと言える時間が全くなかったが、父と一緒に過ごしたかったので全然苦にはならなかった。最期は、市内病院のホスピスで看取った。あの時はよくやったなど今でも思う。

正看護師の学校に通っていたころ、横須賀市が市内のひとり親を集めた交流会を始めた。何回か参加したが、そこで聞いてくれたことが、すぐに解決につながらないことがもどかしかった。そこで出会った仲間と「自分たちで何かやろう!」と、2009年4月「よこすかひとり親サポーターズ・ひまわり」を立ち上げた。ひとり親が自由に悩みや経験を話す交流会を行い、その後、助成金で活動を広げた。ひまわりはさらに、市からの委託事業を受託し、活動を広げてきた。

「どういう子ども時代を過ごしたかで、価値観や性格が変わるだろうと思う。父親がユニークだったから、私は楽しかった。亡くなっても、父親の言葉が今でも私の中にある。私もそういう風に子どもたちの中で生きていきたい」父との原体験が、佐藤さんの情熱の源と感じた。

今後やってみたいことを尋ねると、「枠を外してもっと自由に活動をしていきたい」と答えてくれた。家族への思いを大切にしつつ、ひまわりの活動の場も広げていってほしいと思ったインタビューだった。(はこぎき)



団体紹介

よこすかひとり親サポーターズ・ひまわり

ひとり親の親睦、情報交換等を通じて、市内のひとり親（離婚前を含む）家庭が親子ともども明るく元気に過ごせるように活動している自助グループです。レクリエーションや交流会、講演会や講習会、LINEやホームページなどでの情報発信や個別相談などを行っています。

 <https://yokosuka-himawari.com>

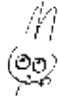




ねえねえ、サポセンってさ、いつも花が咲いているじゃない？あれって沼ちゃんが育ててるの？



あれはね、「スペース・ほっと」という障がい者支援団体がお花を届けてくれているのよ



そうなんだ！いつサポセンにきても、キレイに咲いているから誰がお世話してるのかなあって気になったんだー。



「スペース・ほっと」は、お花屋さんをもっていてね、週に一度新しいプランターを持って来てくれているんだよ。



お花屋をしているなんて凄いな！ のたろんはいつもクッキーを買ったり、パンを買ったり、食べ物ばかり買っていたから、作業所さんは美味しい食べ物を作るところだと思っていたよ！



作業所販売でお菓子や雑貨品を売っていることが多いから、そういうイメージが定着しているわよね。実際には利用者さんの特性に合わせて色んなことをしていて、清掃や廃品回収、パソコン修理をしたりもするのよ。



知らなかったー！ そんなに色々としているんだ。あと、サポセンのお花がそんなに頻りに新しいお花に変わってたことも、知らなかったー！ そりゃあ、いつきてもキレイなわけだよ！ 毎週見に来ないと！



私も毎週新しい花が届くのが楽しみだし、仕事中に眺めて癒しになっているの。のたろんがサポセンに来た時に花を見てくれて、お花が毎回変わっていることに気づいてくれるのは、私も嬉しいなあ。



のたろん花を愛でる心をもったウサギだから！ ところで沼ちゃんは何のお花が好き？



そうねえ一番好きなジンチョウゲかな。花の形も香りも大好き。あとやっぱり桜。桜は、もう日本人のDNAが騒ぐというか、桜っていう言葉で思い浮かぶ全てが好きみたいな感じ。のたろんは？



のたろんはアキノウナギツカミ！ お腹すいてきたあ。



そんな美味しそうなお花あるんだ・・・あ、私、ブバリアも好き。

のたろんが好きな「アキノウナギツカミ」どんな花なんですか。ぜひ調べてみて下さいね。

「一度でいいから見てみたい。池で跳ねてる鯉の『夢』。」
 ...あ、でも夢の中だとお団子食べられない...うっん、悩ましい...
 (小串滋彦)

うっさぎうっさぎくに見てはねる〜
 というところで、皆様お元気でしょうか。甘党です。本日は月を見ながら書いております。
 何しろ今宵は中秋の名月。今年は8年ぶりに満月でした。きれいな満月、スズムシやコオロギのなく声：そしてお団子とお茶。うん、カンペキ。
 ...って！いかんいかん。あまりの整った環境に危うく本題を忘れるところでした。
 今回のお題は「錦鯉はなにゆえ跳ねる？」です。
 絵画や掛け軸などでは錦鯉が跳ねているところを題材にしたものがよく見受けられます。スカジャンの絵柄にも水面から跳ねる錦鯉が描かれたものがありますので、「見たことある！」という方もおられるかもしれませんね。
 鯉はもともと縁起の良い魚ですし、夢占いでも「鯉が跳ねる夢は急成長の暗示」と言われています。絵の題材にされるのも納得...というところでしょうか。
 ただ、現実には鯉が跳ねる理由って、実はけっこうシビアです...鯉が自分の体についていた虫を取るためだったり、水の中の酸素が足りなくて苦しいからだったり、周りに動物が来てびっくりにしたからだったり...と鯉にとっては「跳ねる」というのは生きていくうえで必要な行動なのかもしれません。甘党もこの事実を知るとは...夢と現実ってこんなに違うものなんですね。
 甘党としても、うちの愛錦鯉には元気でいてほしいですし、跳ねているところを実際に見るのは我慢ですね。ですので、
 「一度でいいから見てみたい。池で跳ねてる鯉の『夢』。」
 ...あ、でも夢の中だとお団子食べられない...うっん、悩ましい...
 (小串滋彦)

甘党錦鯉 第11回

錦鯉はなにゆえ跳ねる？



サポセンは、福祉、まちづくり、文化、環境、国際、災害救援など、あらゆる分野の市民活動をサポートする施設。通常9時から22時、土日も開館。印刷や打合せなどができます。

- ◆サポセン情報発信サイト「のたろんジャーナル」
 - ◆Eメール info@yokosuka-supportcenter.jp
 - ◆サポートセンターのホームページ
- 「のたろん Web」は「のたろん」で検索♪

のたろん 検索



***** サポセンtopics トピックス



ご利用ください！
生理用品の無料配布

7月からサポセンの女性用トイレに、自由に使える生理用ナプキンを設置しました。また、必要な方にはまとめて袋でお持ち帰りいただけるように、入口すぐの棚に用意してあります。どんどん使ってほしいです。そして、ナプキンをきっかけに、保健室さんとなつがって、心やからだの心配事を相談できるといいなと思っています。

この取り組みは、「横須賀まちの保健室プロジェクト」「衣笠駅徒歩1分図書館」「一般社団法人アマヤドリ」の合同でおこなっています。寄付などのご協力も受け付けています。サポセン受付にどうぞお声がけください。

情報誌「のたろん」秋号(通巻88号) 2021年10月1日

発行 横須賀市立市民活動サポートセンター
 編集 指定管理者 特定非営利活動法人 YMC A コミュニティサポート
 横須賀市本町3-27(京浜急行汐入駅徒歩1分)

TEL 046-828-3130
 FAX 046-828-3132

市民活動サポートセンターは、市民活動、ボランティア活動の打合せや作業、情報収集を行なう施設です。ご利用の際は受付にて利用票のご記入をお願いします。

